

平成20年度新規採択事業 評価調書

(平成19年度 新規採択時評価実施)

事業の概要

事業名	下水汚泥集約事業		
事業区間	鳥羽、伏見、石田各水環境保全センター及びセンター間の送泥施設	延長、幅員又は面積	送泥管 石田～鳥羽 8.8km, 伏見～鳥羽 4.5km, 他
総事業費	C=39億円	完成予定年度	平成24年度
事業概要 (目的・内容等)	下水処理においては、下水中の濁りや汚れの大部分は、汚泥として下水から取り除かれる。吉祥院水環境保全センターで発生する汚泥については、既に鳥羽水環境保全センターへ送泥を行っているが、本事業では新たに伏見及び石田水環境保全センターから発生する汚泥も送泥し、下水汚泥の集約処理をより一層推進し効率化を図るものである。		
箇所図			

事業を巡る社会経済情勢等

社会背景と 今後の動向	近年の景気動向や節水意識の向上に伴い水需要は低迷しており，流入下水量は減少傾向が続いている。このため，今後の下水道施設整備や改築・更新については，過大とならないように適正な施設規模を考慮して行うことが求められる。 また同時に，厳しい財政状況のもと，より効率的な下水道事業の運営が求められている。
市民ニーズ	石田水環境保全センターの汚泥については，現状では隣接する東部クリーンセンターで焼却を行っている。しかし，平成 24 年度末には同クリーンセンターの休止が予定されていることから，それ以降は常時トラックによって鳥羽水環境保全センターへ運搬することが必要となる。 本事業によって，汚泥は専用の管によって鳥羽へ輸送されることとなるため，現在トラック輸送を行っている伏見水環境保全センターを含め，トラック通行に伴う排気ガス，騒音がなくなるとともに，交通渋滞が緩和され，道路沿線の環境改善につながる。

上位計画から見た事業の有効性

京都市基本計画		事業ごとの上位計画	具体的な効果と受益者
大項目	小項目		
■安らぎのある暮らし □華やぎのあるまち □市民との厚い信頼関係の構築をめざして	だれもが安心してくらせるまち	京の水ビジョン 京都市下水道マスタープラン	環境負荷の低減，災害対策の強化，トラック輸送廃止による交通量の抑制 （受益者）：伏見・石田水環境保全センター周辺の住民，トラック輸送ルート沿線の住民

事業の要件

環境景観への配慮事項	汚泥を鳥羽水環境保全センターへ送泥する際に，汚泥の流出，悪臭の発生によって環境に影響を及ぼさないように，万全の対策を行う。
市民と行政のパートナーシップ	当該事業を位置づけた京の水ビジョンの策定において，広く意見募集を行い，意見を反映させ事業を進めている。 また，工事に先立ち地元説明を実施し，地元住民への情報提供を積極的に進め，理解を得ながら工事を実施する。

事業の評価結果

評価	A
理由	- 本事業は，京都市上下水道事業中期経営プランに位置づけられている取組項目の一つであり，今後5年間の間に実施されるべき事業である。 - 石田水環境保全センターの汚泥処理に支障を来たさないよう，隣接する東部クリーンセンターが休止される平成24年度末までに，試運転までを確実に完了させなければならない。 - 市内各水環境保全センターから発生する汚泥の処理を一元化することによって，汚泥処理の効率が大幅に向上する。 - 本事業で建設する施設は耐震性に優れたものとするほか，汚泥を送泥するための管を2系統とするなど，震災，破損，及び管の閉塞等のリスクへの対応を考慮している。 - 副次的効果として，伏見及び石田水環境保全センターにおいては，汚泥処理関連施設から発生する排水を処理する負担が軽減されるため，下水処理水質の向上が期待される。

評価指標の算定結果

費用便益比（CBR）	$B/C = 1.08$
------------	--------------

事業の必要性

評価軸	評価項目	評価指標
暮らしを安心して暮らせるまちづくり 誰もが安心して暮らせるまちづくり	環境への負担の少ない持続可能なまちをつくる	■河川の水環境を向上させる。 ■施設故障等の非常時における臭気発生リスクが解消される。 ■汚泥トラック輸送が不要となり、排気ガス、騒音、及び振動が抑制されるため、地域の道路環境改善に寄与する。 ■資源リサイクル及び汚泥の有効利用の推進に寄与する。
	災害に強く日々のくらしの場を安全にする	■震災時の施設機能維持及び被害軽減効果がある。
	日常生活における身近な安全や安心を確保する	■汚泥トラック輸送が不要となり、周辺の交通量が減少することに伴い安全性が向上する。 (本事業を行わない場合：トラック 4.6 千台/年（試算） → 本事業を行った場合：0 台)
まちづくり 魅力あふれる	美しいまちをつくる	■汚泥処理施設の減少に伴い景観が向上する。
まちづくり 活力あふれる	産業連関都市として独自の産業システムをもつ（中心市街地の活性化）	■臭気影響の解消によって生活環境の向上が図られ、市街地の活性化に貢献する。 ■汚泥輸送トラックが不要となり、交通量の減少に伴う渋滞緩和や安全性の向上の結果、市街地の活性化に貢献する。
まちづくり 市民のくらしとまちを支える基盤づくり	個性と魅力あるまちづくり	■下水道事業の上位計画である下水道マスタープランが策定されており、その中に当該事業が位置づけられている。 ■隣接する東部クリーンセンターの将来計画との整合を図っている。
市民の知恵と創造性を生かした政策を形成する		■当該事業を位置づけた京の水ビジョンの策定において広く意見募集を行い、事業を進めている。